

公表

## 事業所における自己評価総括表（児童発達支援）

○事業所名	音楽特化型 コスモス・キッズ2		
○保護者評価実施期間	2025年4月1日		～ 2026年3月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 8
○従業者評価実施期間	2025年4月1日		～ 2026年3月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 4月 1日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	言葉や気持ちの表出・コミュニケーションが苦手な子どもたちが音楽を通して自分の気持ちを表現したり、園や日常生活でのストレスを発散したり出来る場所作りをしている。スッキリした気持ちで帰ることで園や家庭で落ち着いて過ごせるように支援している。	本人がやりたい事を支援者が一緒にすることで信頼関係を深める。その結果、支援者が提案する活動もやってみようという気持ちになってくれる。	音楽療法の持つ生理的・社会的・心理的はたらきを今以上に意識しながら支援していく。
2	自由な音の表現の中で「楽しい・もう一回・もっとやりたい」という気持ちが生まれ、意欲的に取り組む経験が大きな力となり自信につながる。遊んでいるようにみえる活動がすべて発達に繋がっており、意味を持って支援している。	音楽活動をやりたくない時は促しはするが無理にさせることは絶対にしない。子どもとの信頼関係を築くために「わがまま」にも意図的に付き合っている。	その時その時の子どもの気持ちや成長に合わせて子どもに合わせるだけでなく、促しながらより楽しい音楽活動に触れる機会をつくる。
3	保護者同伴で来所して頂くことで、子どもの様子や変化をリアルタイムで保護者と共有しながら支援を進めることができる。また、小集団の活動の際は、保護者同士が交流できる場にもなっている。	必要な時に様子をみながら園や家庭での様子を聞き、話しやすい関係性をつくっている。	毎回の支援終了後に保護者との振り返りの時間を作り、音楽療法の内容についてわかりやすく伝える。各々のスタッフが積極的にコミュニケーションを取り、リラックスして話しやすい雰囲気づくりを心掛ける。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制作り。	直接的に関係機関と連携する機会はほとんどなく、相談支援員が開催するサービス担当者会議での情報共有に留まっている。	相談支援員や保護者を介して、他機関と支援の方向性の擦り合わせができるよう報告書などを通じて連携に努める。
2	スタッフだけでなく、保護者や子どもたちも非常災害に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行う機会を増やすこと。	個別活動の時間が連続している為、まとまった人数での訓練を行う時間を作ることが難しい。	避難訓練の実施日程を通信などで周知する。
3	保育所や認定こども園、幼稚園との交流や、地域の中で他の子どもと活動する機会が、年に1回の『音フェス』『クリスマスコンサート』に限られている。	個別支援の為、地域の子どものと交流する場面設定が日常的には少ない。	施設内イベントとして、他の子どもたちと一緒に活動する機会を提供できるように体制を作る。